

# バリアフリーへのご協力をお願い

## はじめに

今年の五月祭は来場者の数を絞っての開催となりますが、その中には五月祭を楽しむにあたってなんらかの「バリア」を抱えた方もいらっしゃいます。この資料は、すべての方に不自由なく五月祭を楽しんでいただくために、企画の皆さまへのご協力をお願いするものです。基本的にはバリアフリー対応は当委員会で受け持つことになっていますが、万が一の場合に備えて皆さまにも知っておいてほしいことを記載しております。

「バリアフリー」という言葉から第一に連想されるのは、いわゆる「障がい者（視覚・聴覚・肢体・知的など）」に対する対応だと思いますが、社会生活の中で困難や障壁を感じる方は外国人・高齢者・子ども・妊婦など多岐にわたります。また、その抱える障壁の程度や解消方法もさまざまです。例えば、白杖は全盲の方だけでなく弱視の方も使用します。そのため時と状況に応じて当事者の要望に応じていただくことが最も重要です。**どんな対応が必要なのかを一番わかっているのは当事者です。**

お困りの来場者を見つけた場合、**基本的にはお近くの委員や案内所までお知らせください。**キャンパスを巡回している委員の中には、東京大学バリアフリー支援室で講習を受けた者がいます。また、案内所では筆談対応やバリアフリーマップの配布、車いすの貸し出しなどのさまざまなバリアフリーサービスを提供しています。

企画の参加や付近の案内にあたってサポートが必要かもしれないと思ったら、次のように対応します。

- ①声をかけ、サポートする必要があるかどうか尋ねます。
- ②必要な場合はどのようなサポートが必要か**本人**に尋ねます（同伴者がいる場合でも、同伴者ではなく、本人に尋ねます）。
- ③危険を回避して安全第一にサポートを行います。

ここからは、具体的なサポートの内容について説明します。

## 視覚障がいのある方へのサポート

- ・五月祭期間中、点字ブロックがテントでふさがってしまっていることがあります。**白杖を頭上に垂直に掲げている方**がいらっしゃったら、サポートを必要としているサインです。
- ・声をかける際は、自分から近づいて行きます。いきなり肩を叩くなどの行為はお控えください。
- ・誘導が必要なときは、白杖（または盲導犬のハーネス）を持っていない側の**半歩前**に立ち、**相手と手の甲同士を合わせて自分の肘または肩につかまってもらいます**。一緒に移動する際は細かいところまで声をかけてあげることが意識してください（例：「右に曲がります」「段差があります」）。自分が相手から離れる場合は一声かけて、一時的に壁や柱などに手を触れさせて待っててもらいます。
- ・方角などを説明するときは、前後左右やクロックポジション（例：「右側 5m 先に〇〇があります」「（12 時が正面で） 9 時の方角に安田講堂があります」）、具体的な数字などを活用してください。「あっちに」「こっちに」などのあいまいな表現は避けます。

## 聴覚障がいがある方へのサポート

- ・外見ではわかりにくいですが、補聴器や耳マーク（緑色の耳のマーク）をつけている方もいます。
- ・筆談やスマートフォンなどの文字起こしで会話をする際は、次の点に留意してください。
  - ①読みやすい文字で書く。
  - ②5W1H を明確にして要点を簡潔にする。
  - ③筆談内容がきちんと伝わっているか確認する。
  - ④公式パンフレットなどを活用する。

## 知的障がい・発達障がいのある方へのサポート

- ・会話をする際は、次の点に留意してください。
  - ①前方から声をかける。
  - ②ゆっくりはっきり短く具体的に話す（例：「トイレを探していますか？」）。
  - ③ Yes/No で答えられるようにする。
  - ④言い換え・視覚化する。
  - ⑤優しい口調で肯定的に話す。

## 肢体不自由・平衡機能障がいのある方へのサポート

- ・ 車いすに乗っている方に話しかけるときは前方から、何かを手渡すときは横からが楽な姿勢です。
- ・ **車いすを押した経験のない方は押さないでください。** 押すときは、前方に十分距離をとり、足元に注意してください。意識的にゆっくり歩き、曲がる前・止まる前には必ず声をかけます。下り坂では 180°回転し、自分が下側になるように進みます。ブレーキ・ストッパーを適切に使用することも重要です。
- ・ 車いすで行けない場所の企画に入場を希望されたときには、資料だけ渡す・スマホで撮影する・テレビ電話で中継する・可能な場合オンラインで閲覧してもらうなどの代替手段をとることもできます。複数人であっても、車いすを抱え上げて動かすことは危険ですのでおやめください。
- ・ 杖をついている人に対しては、杖をついていない側の半歩手前に立ち、斜め後ろから腰を支えてください。階段を上がるときは「健康な足→杖側の足」の順序、降りるときは逆の順序で階段に足をのせるようにしてください。手を貸せば杖を使う必要もないという程度なら、杖は預かって反対側の手で持ちます。

## その他の方へのサポート

- ・ 内部障がい（心臓機能障がい・腎機能障がい・膀胱/直腸機能障がい・呼吸機能障がいなど）をお持ちの方は外見でわかりづらいですが、ハートと十字が描かれた赤いマーク（ハート・プラスマーク）をつけていらっしゃる方もいます。これらの方は体力が低下しているので、いすなどに座ってもらってから話すようにしてください。また、携帯電話などの機械により影響を受けることもあることに注意してください。
- ・ 言語障がい（吃音など）をお持ちの方に対しては、自然体で接し、最後まで遮らずに話を聞いてください。聞き取れなかった部分は訊き返しても構いませんので、わかったふりをしないことが重要です。
- ・ ご高齢の方に対しては、低めの声で、外来語を避けてゆっくり話します。認知症の方の発言は否定せず、対応に困ったら話題を変えるなどしてください。個人差が大きいので、一概に老人扱いせず、配慮しつつも本人の尊厳を損なわないような対応が必要です。
- ・ 妊婦の方や小さな子どもを連れた方に対しては、雨で濡れた通路などへの注意喚起をお願いします。妊婦の方が座る際は、座面が膝より高く肘掛けのつきたいすが理想とされています。
- ・ 外国人の方に対しては、まずはゆっくりはっきりとした分かりやすい**日本語**で話しかけ、相手から英語などで返答があってから英語に切り替えます。単語や稚拙な文でも構いません。ジェ

スチャーや筆談も活用してください。

作成に当たっては複数の文献・資料を参考にさせていただきました。この資料についてのご意見・ご質問がございましたら、当委員会までお気軽にお問い合わせください。この資料の内容については企画構成員にも周知していただけると幸いです。

第95期五月祭常任委員会